

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年7月31日現在

今月の重点活動

■なし 梨西日本根圏制御栽培法現地展示会を開催～新たなブランド創出支援事業～

7月6日、7日の2日間、果樹の根圏制御栽培法実践コンソーシアム共同研究機関の主催による「西日本根圏制御栽培法現地展示会」が開催された。6日は三重県でシンポジウムや展示会が、7日には大垣市で(株)D I Bが栽培管理する根圏制御栽培ほ場にて現地展示会が開催され、現地展示会では100名程が参加者して栽培施設や生育状況に関する現地検討を行った。



【梨根圏制御栽培法現地展示会】

大垣市の梨生産者は展示会、現地展示会に参加し、早期多収生産技術について理解を深めた。

農業普及課は、農業経営課・大垣市・JAにしみの等の関係機関と連携して現地展示会の開催準備及び支援を行った他、栽培管理方法や生育状況について説明した。今後も、栽培管理指導により、根圏制御栽培法の確立と普及を目指す。

多様な担い手づくり

■女性農業経営アドバイザー 視察研修会を実施

7月7日、西濃ブロック女性農業経営アドバイザー視察研修会が開催され、三重県多気郡「せいわの里まめや」において地域食材である大豆を生かした料理をふるまうレストラン経営及び地域活動について学んだ。また、鈴鹿市の「近藤農園ナチュラルベジタブル」では経営者である近藤けい子氏より、女性の働きやすい職場づくりを目指した環境整備等について説明を受け、自然栽培の農場を見学した。経営拡大のためには雇用が不可欠であり、女性の雇用機会が多いため、経営者としての意識づけや、環境整備等に対する取り組みは参考になった。農業普及課は、研修会の企画支援・助言等を行った。



【近藤氏より説明を受ける】

■大垣養老高校 就農・進路相談会

県立大垣養老高校における就農・進路相談会が、高校での個別面談に合わせて7月14日に開催された。将来就農を希望する高校生3名に対して、ぎふアグリチャレンジ支援センターと共に面談を行った。農業普及課は、管内の農業及び就農事例紹介等を行い支援した。高校生の出身は専業農家2名、兼業農家1名であったが、いずれも農業大学校または4年生大学進学を希望し、将来的には地元で就農を考えているとのことであり、未来の農業後継者として大変頼もしく感じられた。

■農事組合法人南杭瀬 (農)南杭瀬設立総会が開催される

7月1日に農事組合法人南杭瀬設立総会が、JAにしみの南杭瀬支店で開催された。本法人は、10年前に設立された集落営農組合南杭瀬営農生産組合を前身とする組合である。任意組合時の組合員は148名であったが、法人化後の組合員は104名となった。今後本組織は、組合員による農作業委託等により営農を行う。

総会では、大垣市、JAにしみの及び西濃農林事務所から祝辞があり、今後の法人の活動に期待が寄せられた。農業普及課は、今後も農事組合法人南杭瀬の活動支援を行っていく。

売れるブランドづくり

■ トマト 海津トマト部会販売反省会開催

6月27日に海津トマト部会販売反省会が開催され、平成29年産の実績と出荷推移について、全農・農協・市場関係者より報告があった。平成29年産は、ここ数年の中ではたいへん厳しい販売であった。6月10日までの前年対比は出荷量が98%、販売額が92%、単価は94%であった。昨年は9月の長雨と、施設更新の影響で定植が遅れたこともあり、前年より7割程度の出荷量で、単価は高く推移した。しかし年が明けると全国的に天候に恵まれ、出荷量が増加し収穫最盛期までその傾向が続いた。

さらに近年は、全国的に冬春トマト栽培面積が増加し、新技術導入による単収の増加もあることから生産量が多く、単価低迷の要因になっている可能性がある。部会としても、来年産に向けて、関係機関としっかりと販売戦略について検討する必要性を意識しており、農業普及課もそれに応えるため新技術の普及や組織活動の強化を支援していく。

■ ブロッコリー 栽培前研修会の開催

ブロッコリー栽培前研修会が各地域で開催されている(7/20:不破地域、7/21:大垣地域、7/24:安八地域)。大垣部会及び安八部会では、毎年栽培ほ場を変更する農家が多いため、栽培前に土壌診断を行っている。

農業普及課は、ほ場毎に土壌改良剤施用について処方箋を作成し、診断結果に基づいた資材等の施用や品種・定植時期について説明するとともに、出荷量の平準化に向けた作付を呼びかけた。

■ 加工用キャベツ 加工用キャベツ栽培支援（不破地域）

7月14日に養老区域青果物協議会で加工用キャベツの栽培研修会が開催され、栽培指導を行った。昨年は湿害による減収が目立ったので、排水対策を強化するよう指導した。養老町では、今年度約17haの栽培が計画されており、おおむね生産者で育苗する見込みとなっている。播種作業は7月20日から始まり、農業普及課では今後、育苗状況を把握して必要な支援を行う予定である。不破地区は昨年度より3経営体(1法人+2個人)増え、4経営体で計65aを作付する予定である。

■ えだまめ 「湯あがり娘」出荷中（海津）

6月22日に海津枝豆部会の目揃会が開催され、出荷物の品質向上に向けた目合わせ並びに栽培講習が行われた。29年産の会員は新規1名を加えた10名。近年人気の茶豆風味品種「湯あがり娘」の出荷が行われている。

本年産は春先の低温により育苗期間が長い傾向にあったが、5月に入ってからの高温によって生育はほぼ回復した。今後、気温が高く推移する予報があり、生育期間の短縮による収穫適期の集中と品質低下が懸念されている。

農業普及課では、フタスジヒメハムシ、ハダニ、そぶ症等の防除対策とあわせて注意喚起を行った。



【目揃会の様子】